

(寄稿)

精神科救急に特化した医療機関

～ 先を見据えた経営戦略 ～

<はじめに>

医療提供体制における医療機能の分化・連携といった役割分担は、医療機関全体のテーマとされて久しい。

2011年6月30日の政府・与党社会保障改革検討本部決定の「社会保障・税一体改革成案」においても地域の実情に応じた医療・介護サービス提供体制の効率化・重点化・機能強化の方策として、「病院・病床機能の分化・強化と連携」が掲げられた。

このように、地域に密着した病床対応として、一般病院のみならず精神科病院においても、急性期、亜急性期、慢性期といった機能分化が進んでいる。

成仁病院（東京・足立）は、東京都の精神科2次救急病院の一つで、2007年7月に民間単科精神科病院として東京23区内では38年ぶりに開設された。

病床数114床（病床稼働率93%）、救急対応平均130件/月、入院件数平均103件/月、平均在院日数30.6日と、短期集中治療と早期退院を理念とし24時間救急対応・精神科救急分野に特化していることが特徴である。

開設から約4年半。精神科病院としては後発組ともいえる成仁病院の取組事例をご紹介します。

2012年1月30日

Healthcare note

(No. 12-01)

寄稿者名
医療法人社団成仁
理事長・院長
片山 成仁

編集主幹
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザー
河添 麻美

野村證券株式会社
金融公共公益法人部